— 観 察 記 録 —

南西諸島におけるヒメクロアジサシ *Anous minutus* の繁殖初記録

水谷 晃^{1,*}・仲地邦博²・河野裕美¹

¹ 東海大学沖縄地域研究センター 〒907-1541 沖縄県八重山郡竹富町上原 870-277

² 宮古野鳥の会 〒906-0007 沖縄県宮古島市平良字東仲宗根 711-3

(2018 年 9 月 18 日受付；2019 年 2 月 7 日受理)

キーワード：ヒメクロアジサシ, *Anous minutus*, 繁殖分布, 宮古群島, フデ岩.

日本鳥学会誌

Japanese Journal of
Ornithology

© The Ornithological Society
of Japan 2019

Akira MIZUTANI^{1,*}, Kunihiro NAKACHI², Hiroyoshi KOHNO¹. The first record of Black Noddy *Anous minutus* breeding on the Nansei Islands, Japan. Jpn J Ornithol 68: 375–378. (2019)

Key words: Black Noddy, *Anous minutus*, Breeding distribution, Miyako Islands, Fude-iwa.

¹ Okinawa Regional Research Center, Tokai University, 870-277 Uehara, Taketomi-cho, Yaeyama-gun, Okinawa 907-1541, Japan.

² Wild Bird Society of Miyako, 711-3 Higashi-nakasone, Hirara, Miyakojima-shi, Okinawa 906-0007, Japan.

1. 種名・観察個体数：ヒメクロアジサシ *Anous minutus* 成鳥 2 羽，雛 1 羽

2. 観察者名：水谷 晃

3. 観察日時・場所：2018 年 6 月 29 日，沖縄県宮古島市の宮古島北端から北東に約 12 km 離れた無人島フデ岩 (24°58'47"N, 125°21'35"E).

4. 観察距離：最短約 5 m. 目視および双眼鏡 (8 倍) で確認し，35–350 mm のズームレンズを装着した一眼レフカメラで撮影した.

5. 観察した環境：フデ岩は，琉球石灰岩の小さな岩礁島 (面積約 0.002 km²，標高約 9 m) である. また，その周囲にはさらに小さな岩礁群が付属する. フデ岩には，灯台と緊急用ヘリポート (約 15 m 四方) が設置されている. 著者らは，環境省によるモニタリングサイト 1000 (海鳥) の一環として，海鳥類の繁殖個体群の現況調査を目的にフデ岩に上陸した. 繁殖中の海鳥各種に与える影響を極力軽減するために，上陸時間を 1 時間以内とした. 植生は主に灌木のモンパノキ *Heliotropium foertherianum* のほか，ハマウド *Angelica japonica*，ナハカノコソウ *Boerhavia glabrata*，ミルスベリヒユ *Sesuvium portulacastrum*，ハギカズラ

Galactia tashiroi およびシバ類 *Zoysia* spp. などの海岸性植物が生育していた. 本岩礁は海鳥類の集団繁殖地として知られ (安部ら 1982; 環境省自然環境局生物多様性センター 2010, 2013)，調査時にはクロアジサシ *A. stolidus*，マミジロアジサシ *Sterna anaethetus*，およびエリグロアジサシ *S. sumatrana* の繁殖を確認したほか，セグロアジサシ *S. fuscata*，ベニアジサシ *S. dougallii*，およびカツオドリ *Sula leucogaster* を確認した.

6. 形態に関する記述：2 羽の成鳥は，周囲のクロアジサシよりもやや小さかった (Ad.1 と Ad.2, 図 1A). 全身は黒褐色であり，額から頭頂および後頸にかけて徐々に白色から灰色へと変わっていた (図 1B). 嘴は黒く，細くて長かった. 脚は褐色であった. 眼の上部は短く，下部にはやや長いアイリング状の白色部がみられた. 雛は，概ね幼綿羽に覆われていたが，頭頂と背面に正羽が生え始めていた (図 1C). 雛の羽色は全身黒褐色で，額から頭頂，後頸にかけて白色であった. 成鳥と同様に眼の上下にアイリング状の白色部がみられた. 八重山諸島仲ノ神島の観察では，クロアジサシの雛の幼綿羽は白色型と黒褐色型がみられるが，後者は非常に稀である (河野・水谷 未発表). 今回観察されたヒメクロアジサシの雛の幼綿羽は，

* E-mail: ma110267@tsc.u-tokai.ac.jp

doi:10.3838/jjo.68.375

図1. 宮古島沖フデ岩で確認されたヒメクロアジサシ。A, 成鳥2羽, 雛1羽および巣, その他の個体は全てクロアジサシ; B, 親鳥 (Adult 1) と雛; C, 雛。(2018年6月29日, 撮影: 水谷 晃)
 Fig. 1. Black Noddies observed on Fude-iwa, off Miyako Island. A: two adults, a chick and nest. B: a parent (Adult 1) and chick. C: chick. Photographed on 29 June 2018 by A. Mizutani.

仲ノ神島で観察されるクロアジサシの黒褐色型の雛よりも黒味が強く、かつ頭部の白さがより明瞭であった。

7. 計測値：—

8. 種を同定した基準：成鳥2羽は体が小型で細長く、翼や嘴が細長く、脚が短いことからカモメ科のアジサシ類であると同定され、全身が黒褐色で頭部は白色であることから *Anous* 属であると同定された (Harrison 1985; Gochfeld & Burger 1996)。また、成鳥2羽は、クロアジサシよりも明瞭に小さいこと、額から頭頂の白色部の白さがより際立つこと、全身の黒味がより強いこと、嘴がより細長いこと、および脚が褐色であることから、本種であると同定した (Harrison 1985; Gochfeld & Burger 1996)。なお、*Anous* 属で類似する日本未記録のインドヒメクロアジサシ *A. tenuirostris* は、ヒメクロアジサシよりも小さく、頭部から脇にかけての羽色はより淡く灰色みを帯びるため、観

察された成鳥2個体とは異なる (Harrison 1985; Gochfeld & Burger 1996)。

9. 観察した行動：ヒメクロアジサシの巣の観察は、モニタリング調査の開始前と終了後に計7分間行ったのみである。巣は立ち枯れしたモンバノキの樹上で、主幹が枝分かれる中央部に架けられていた。巣材の詳細は不明であったが、枯れた植物の茎が写真から確認できた。なお、周囲のクロアジサシは、岩やサンゴ礫の上などで営巣し、巣材は少量の礫や小枝などを敷き、より浅かった。ヒメクロアジサシの巣には成鳥1羽が雛1羽に寄り添っていた。別の成鳥1羽は、周囲のアジサシ類が調査者に対して警戒し、一斉に飛翔を繰り返すのと同時に、巣のある枯れ木の上から飛び立ちを繰り返した。

10. 写真の有無：有り (図1)。

11. 死体・標本保管場所：—

12. 過去の記録とその文献：本種は主に太平洋

と大西洋の熱帯海域に広く分布する (Gochfeld & Burger 1996). 日本では、小笠原諸島で本種が観察されており (Brazil 1987), 火山列島の硫黄島沖にある監獄岩で繁殖が確認されているほか (渡辺・時田 2003), 南鳥島で第二次世界大戦以前に繁殖が記録されている (Chiba et al. 2007). 一方、南西諸島および台湾では、これまで繁殖の記録はなく、本種は迷鳥とみなされている (日本鳥学会 2012; Ding et al. 2017). 南西諸島では、奄美大島、沖縄島、コマカ島、南浮原島、宮古島、石垣島、および仲ノ神島で本種の記録がある (日本鳥学会 2012). ただし、1976 年以降、八重山諸島の仲ノ神島では海鳥の繁殖モニタリング調査が毎年実施されているが、同島で本種の飛来はこれまで確認されていない (河野ら 1986; 河野・水谷 未発表). 一方、2014 年と 2015 年の夏期に、それぞれ石垣島 (環境省自然環境局生物多様性センター 2016) と西表島 (水谷 未発表) で、単独で活動する本種が観察されている. 宮古群島では、1983 年に宮古島南東沖にあるパナリ岩礁で本種が初めて確認された (久貝ら 2000). なお、仲地ら (2014) では、宮古島における本種の初確認を 1981 年として記載しているが、これは誤りである (久貝勝盛 私信). 2000 年以降の調査では、フデ岩で 2012 年に最大 8 羽 (環境省自然環境局生物多様性センター 2013), パナリ岩礁で 2011 年に最大 3 羽 (仲地 未発表) の成鳥がそれぞれ記録されている. このうち 2016 年には、仲地が、高木昌興氏、植村慎吾氏、浜地 歩氏、髙原建二氏とともにフデ岩においてモンパノキの樹上に本種と思われる巣を 2 つとその近くに 3 羽の成鳥を確認したが、卵や雛の確認には至らなかった.

13. その他: フデ岩とパナリ岩礁は、宮古島市自然環境保全条例に定める特別保全地域であり、上陸には宮古島市に届出を提出する必要がある. また、近隣の港には海鳥の繁殖を妨げないように、立ち入りの自製の協力を求める啓発看板が設置されている. それでもなお、バードウォッチングや撮影を目的にこれらの島や岩礁への渡島者が後を絶たない. 本種のみならず海鳥集団繁殖地の保全を図る上で広い理解と一層の啓発努力が望まれる.

14. 考察: 上述の通り、今回の 1 巣は南西諸島における本種の繁殖初記録である. 集団繁殖する海鳥類では、他種のコロニーに混在して一時的な繁殖を行うことがある (例えばアカアシカツオドリ *S. sula*, 河野ら 1986; アジサシ *S. hirundo*, 木村・深井 1994; 山本 1994). フデ岩では、本種の

成鳥の小群が断続的に確認されており、また 2016 年には本種と思われる巣が確認されている. 従って、今後も本種の繁殖が継続される可能性もあり、注視する必要がある.

観察された雛は、幼綿羽に覆われ、頭頂と背面に正羽がみられ、アジサシ類他種の成長段階と比較すれば (例えばクロアジサシ, 河野 未発表; エリグロアジサシとベニアジサシ, 水谷・河野 2009), 10 日齢前後であると推察された. 従って、孵化日は 6 月 19 日頃であったと推察される. また、本種の抱卵日数は 30–37 日であることから (Gochfeld & Burger 1996), 産卵日は 5 月 13–20 日頃であったと推察される. フデ岩とはほぼ同緯度に位置する硫黄島沖の監獄岩 (24°48'N, 141°17'E) では、5 月下旬に抱卵が確認されており (渡辺・時田 2003), 今回記録された個体の推定繁殖時期は、概ねこの記録と一致した.

フデ岩への渡島に際して池間島の勝連氏にお世話になった. 匿名の査読者ならびに本誌編集委員には有益な指摘と助言を頂いた. これらの方々に感謝の意を表す. 本調査は、環境省による平成 30 年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業 (モニタリングサイト 1000) 海鳥調査業務 (山階鳥類研究所から東海大学への委託) の一環として実施した. 宮古島市自然環境保全条例第 25 号の規定に基づいて上陸調査の届出を提出した.

引用文献

- 安部直哉・真野 徹・久貝勝盛・山本 晃 (1982) マミジロアジサシの新繁殖地と体の計測値. 山階鳥研報 14: 72–76.
- Brazil M (1987) A record of Black Noddy *Anous tenuirostris* from the Ogasawara Islands. Jpn J Ornithol 36: 99.
- Chiba H, Kawakami K, Suzuki H & Horikoshi K (2007) The distribution of seabirds in the Bonin Islands, southern Japan. J Yamashina Inst Ornithol 39: 1–17.
- Ding TS, Juan CS, Lin RS, Pan CY, Tsai YJ, Wu J & Yang YH (2017) *The 2017 CWBF checklist of the birds of Taiwan*. Chinese Wild Bird Federation, Taipei.
- Gochfeld M & Burger J (1996) Family Sternidae (Terns). In: del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (1996) *Handbook of the Birds of the World. Vol. 3. Hoatzin to Auks*: 624–667. Lynx Edicions, Barcelona.
- Harrison P (1985) *Seabirds: An Identification Guide (revised edition)*. Croom Helm, London.
- 環境省自然環境局生物多様性センター (2010) 平成 21 年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業 (モニタリングサイト 1000) 海鳥調査業務報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田.
- 環境省自然環境局生物多様性センター (2013) 平成 24 年度モニタリングサイト 1000 海鳥調査報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田.
- 環境省自然環境局生物多様性センター (2016) 平成 27 年

- 度モニタリングサイト 1000 海鳥調査報告書. 環境省
自然環境局生物多様性センター, 富士吉田.
- 木村裕一・深井宣男 (1994) 群馬県南部におけるコアジ
サシとアジサシの繁殖状況. 鳥類標識誌 9: 22–26.
- 河野裕美・安部直哉・真野 徹 (1986) 仲の神島の海鳥
類. 山階鳥研報 18: 1–27.
- 久貝勝盛・砂川友弘・親泊宗正・岡 徹・座喜味英二・
川満 武・下地一雄 (2000) 東平安名崎パナリ岩礁の
アジサシ類. 宮古野鳥の会 (編) 宮古野鳥の会 25 周
年記念誌: 30–34. 宮古野鳥の会, 宮古島.
- 水谷 晃・河野裕美 (2009) エリグロアジサシとベニア
ジサシのモニタリング手法の提案—コロニー外からの
観察による営巣数の計数と雛の齢査定に基づく産卵時
期の推定—. 山階鳥学誌 40: 125–138.
- 仲地邦博・久貝勝盛・岡 徹・砂川友弘・砂川栄喜・金
子 進・真壁靖人・山本 晃 (2014) 宮古諸島の鳥類
目録. 宮古野鳥の会 (編) 宮古野鳥の会 40 周年記念
誌: 14–30. 宮古野鳥の会, 宮古島.
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改定第 7 版. 日本鳥学
会, 三田.
- 渡辺義昭・時田賢一 (2003) 硫黄島におけるヒメクロア
ジサシ *Anous minutus* の繁殖初確認について. 我孫子
市鳥の博物館調査研究報告 11: 35–45.
- 山本敏夫 (1994) 日本におけるアジサシ *Sterna hirundo* の
初繁殖記録. 鳥類標識誌 9: 1–4.